

令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年1月30日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
教師も子どもも活気に満ちた魅力ある学習の展開する	学ぶ意欲の向上	子どもが主役となる学習展開を創造し、1人1台のタブレット端末を効果的に活用する。	A	A	・タブレット端末も活用し、担任が個性をいかした授業が展開できている。 ・基礎基本の定着に課題がある児童も「できるようにしたい」という向上心を示している。 ・家庭での読書習慣の定着が課題である。	A	・家庭での読書習慣の定着が不十分であると感じた。新聞を教育に活用するNIE教育を導入したり、読書指導の在り方を改善したりしてほしい。	・メディアコントロールとも絡めた読書指導を、家庭と連携して実施する。市民館やマナブルの図書室、まちなか図書館などを地域教材として活用し、より実生活に浸透した読書指導を目指す。
	思考力・判断力・表現力の育成	考えの焦点化・再考を促す発問や関わり合いのある学習展開を工夫する。	A					
	基礎基本の定着と読書活動の充実	学習習慣を大切にし、基礎基本の定着を図り、読書環境を整える。	B					
自主的・創造的な活動を推進し活動する楽しさが味わえる	主体的に活動する態度の育成	体験活動と振り返りを繰り返す中で、人間的な成長を目指す。	A	A	・地域のかたからあいさつができるようになったと褒めていただくことが増えた。 ・「なかよし班」での活動が継続的に親和的に行えている。 ・児童らのチーム学校として、教職員に見守られている意識が高い。	A	・学校行事やなかよし班での活動など、楽しい学校生活が送れていると感じる。 ・学年の発達段階に応じて、主体的に活動する意識を高めるよう努めてほしい。	・引き続き魅力ある学校行事や児童会活動を創りあげていく。 ・令和8年度は、全学年が単学級になるので、たてわり活動のいっそうの充実を図り、高学年児童の成長と、低学年児童の安心感につながるよう努める。
	異年齢集団活動の充実	縦割り班で異年齢遊びを通して他を思いやる集団を育む。	A					
	温かな学校集団づくり	教員全員がすべての子どもの担任であると意識し、教員間の情報交換を充実させる。	A					
家庭・地域・学校の三者で子どもを育て、信頼される開かれた学校	情報発信と情報収集	学年学級だよりの発行と学校ホームページの更新を随時行う。	A	A	・学校ホームページや学校便りなどでの発信が家庭に確実に届いている。 ・読み聞かせをはじめとして、地域ボランティアに支えられ、児童も地域のかたにあいさつするなど交流が保っている。 ・児童がより運動に親しめる環境の整備と、SNSやメディアの利用に関してはさらなる家庭との連携が必要である。	A	・家庭でのスマホやデジタル機器の利用にあたって、親子双方が納得できるルール作りが重要。 ・地域との交流に関しては、子ども会などの事業に大人の参加が少ないのが気になる。	・メディアの適正利用に向けて、読書指導とも絡めた一体的な指導を行う。 ・遊びの中で体を動かしたり、短なわとびに挑戦するなど、体力と運動能力の向上が図れるように支援計画を立てる。 ・いずれも保護者や地域との連携が課題になる。
	安全、安心な学校づくり	地域とふれ合い、地域の特性をいかし、開かれた学校づくりを推進する。	A					
	体力づくりとメディアコントロール	体力づくりと健康増進に努めるとともに、家庭と連携してメディアコントロール力を育てる。	B					
子どもの「生きる力」を育むために指導力を高める	教員の指導力と授業力の向上	計画的・意図的に研究授業・協議会を実施し、その成果を共有し合う。	A	A	・教職員の研修は計画的に行われ、OJTと併せて成果を上げている。 ・家庭との信頼関係は築けているが、誰一人取り残さないという個に応じた支援をチーム学校として継続していく。 ・地域の人、もの、ことを教材化し地域に学ぶカリキュラムを持続可能なものにする工夫が必要。	B	・学校と地域の結びつきを意識した行事や活動がなされていると感じる。今後も継続してほしい。 ・学校においては、1人1人の特性を生かす指導に努めてほしい。	・いじめ防止と心理的安全性を高めるために、地域や保護者と緊密に連携する。 ・個に応じた支援を手厚くするために働き方改革を推進し、子どものために使える時間を1分でも多く生み出す。また教師間の連携を強化するための仕組みを改善する。
	子ども、保護者と共に歩む教職員集団	子どもの成長のためのたてを模索し、見通しをもって実行する教師集団を目指す。	B					
	地域とふれ合う授業づくり	地域とふれ合い、玉川の人・自然・文化を愛する心を育む教材を発掘する。	A					
学校施設の整備と心の和む教育環境	登下校時の安全確保	地域と連携して通学路点検を実施し、登下校時の安全確保に努める。	A	A	・子ども見まもり隊とPTA交通立ち番の努力により、登下校時の安全が確保されている。 ・今後、児童の心理的安全性を高める施設整備も併せて進めていきたい。	A	・子ども見まもり隊や立ち番の保護者のおかげで無事故で安全に登下校できており、大変感謝している。	・子ども見まもり隊やPTA交通立ち番の活動が持続可能であり続けるための制度設計を改善する。 ・地域の目を防犯、通学路保全にいかす仕組みづくりを進める。
	施設設備の安全確保	学校の施設・設備が有効活用されるように点検整備する。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】